授業者 梶田祐子
(音楽室)

1 題材 サンバでときめきアンサンブル

2 授業構成

(1) 教師と教材

ブラジル音楽を代表するサンバは、世界の多くの人々に親しまれている。ブラジルへ移り住んだアフリカの人々が、空き缶やテーブル、食器などをたたいたり、手拍子を打ったりして、大好きな音楽を楽しんだことから生まれたといわれる。中でも、サンバ・バトゥカーダと呼ばれる打楽器アンサンブルは、いくつかのリズム・パターンを重ねたり、変化させたりしながら音楽を構成していくものである。カーニバルの演技と演技の間に演奏されるカーニバル・マーチとも呼ばれ、一人一人のリズムは単調なくり返しであるが、叩く楽器、振る楽器、擦る楽器の様々な音が混ざり合って、独自のグルーブ感が生み出される。さらに、途中でブレイク(オパ!)を入れたり、楽器をだんだん増やしたり減らしたりすること(かべぬり・かべぬき)によって、魅力ある音楽へと発展させていくことができる。そこには、ブラジルの人たちの豊かな感性や知恵、また彼らの生活の中に音楽が自然に音楽が息づいていることを感じ取ることができる。

(2) 子どもと教師

本校音楽科では、新しい音楽と出会い、見よう見まねを基本とした習得過程からその音楽の特質に気づき、自分なりにその音楽の魅力を見いだしていくという流れで学習している。その際には、音楽だけでなく音楽を取り巻く自然・社会・文化なども絡めながら、音楽と人間のつながりもとらえることができるように考えている。教材を通して生まれる子どもたちの気づきを大切にし、それを生かして演奏しながら、自分なりの表現が工夫できることをねらいとしている。

本学級の児童は、題材「ミュージカルって楽しい」では歌に合わせて身体表現を工夫したり、映画『サウンド・オブ・ミュージック』を通して音楽の意味や役割について考えたりした。また、題材「プラスバンドと行進しよう」では、マーチングのステップを考えることによって、行進曲の音楽的な特徴をとらえる学習をした。さらに、題材「ふるさとの民ようをたずねて」では、ソーラン節の歌い方をそっくりまねる活動から、民謡の特徴をつかみ、歌詞の意味や由来をとらえた上で、自分なりの歌い方を工夫した。

45分間の授業において、言葉による話し合い活動は最小限にとどめ、できるだけ実際に演奏する時間を多くとるようにしている。したがって、教師がよいと感じた表現はどんどん紹介し、それを児童が自分の表現にどのように生かしていくのかを見取っていくようにしている。また、音楽表現だけでは分からない一人一人の内面を知るために、毎時間の終わりに「今日の学習のふり返り」を書く時間を設けている。

本時は、課題からのアプローチとして、「本場のサンバに近づくためには、何をどうすればよいのか」を児童に問いかけていく授業である。今まで学習したことを生かして考えていくため、児童の気づきを大切にし、それを教師がうまく整理しながら進めていきたい。また、児童の変容や成長を認めながら、楽しく工夫できるようにしたいと考えている。

(3) 子どもと教材

マツケン・サンバのヒットにより、現在サンバは子どもたちにとって親しみのある音楽となっている。明るく陽気なサウンドとリズムは、思わず体を動かしたくなってしまふ。しかし、自分たちでサンバのリズムを生み出すことになると、なかなか難しいと思われる。特に、本場のサンバの速さによって、いくつかの異なったリズムを重ね合わせるためには、かなりの練習を要するであろう。また、何度も何度もくり返し演奏し、その音楽に浸るこ

とができなければ、サンバのよさに気づくことはできない。そこでまず、いつでもサンバのリズムが楽しめるように、身近なものを使って代用楽器を作ることから始めることにした。そして、アンサンブルを発展させていく段階では、自分の担当楽器を決めて、とことんサンバのノリを追究させていきたい。さらに仕上げる段階では、本場のサンバ・バトゥカーダの演奏を聴いて組み立てをとらえたり、演奏している映像から楽器の演奏の仕方やリズムのとり方を感じ取ったりして、自分たちの演奏に生かしていくようにさせたい。

本時は、本場の演奏をヒントにしながら、今まで練習してきたサンバ・バトゥカーダをよりよく仕上げていくのがねらいである。いろいろ試行錯誤しながら、少しでもサンバの特質に迫った演奏になることを期待している。そして、サンバにのってみんなの心と体がひとつになる瞬間を体験することによって、打楽器アンサンブルのもつ魅力やブラジルの人たちの素晴らしさを実感してくれることを願っている。

3 題材の目標

- ・サンバの音楽的な特徴やブラジルの人々の生活とのつながりをとらえる。
- ・いろいろな打楽器に親しみ、サンバのリズム・アンサンブルを楽しむ。

4 学習計画（全9時間）

- 第1次 サンバとの出会い（1時間）
- 第2次 サンバのリズムに挑戦（3時間）
- 第3次 サンバのアンサンブルに挑戦（3時間） 本時 3 / 3
- 第4次 心ときめくサンバの演奏を楽しもう（2時間）

5 本時の学習について

（1）本時のねらい

前時に行ったリズムの大改造に加え、どうしたら本場のサンバ・バトゥカーダのような演奏になるのかを考えながら、自分たちのアンサンブルのよりよい演奏をめざす。

（2）本時の課題

どうしたら「本場のサンバ」のアンサンブルに近づけるか！

（3）本時の課題から期待される児童の活動

- ア どうしたら速さがキープできるかを工夫する。
- イ どうしたらアンサンブルの進行がスムーズにいくかを工夫する。
- ウ どうしたら全身でリズムにのれるか工夫する。

（4）本時の展開（・教師の意図 全体への支援 期待される活動が発展しない場合の支援）

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
1．本場の「サンバ・バトゥカーダ」の映像を見ながら、リズムにのって体を動かす。	・自分たちがめざそうとするサンバをイメージすることと、演奏に向けて体をほぐすために行う。 速いテンポにはついていけないことが予想されるので、ここでは楽器は使わずに手や足を打ってリズムをとるようにする。
2．前時の活動を思い起こし、今日のめあてを確認する。	前時は大改造第一弾として、それぞれのパート別にリズムをそろえてきたことを思い起こさせる。

どうしたら「本場のサンバ」のアンサンブルに近づけるか！

3. サンバ・バトゥカーダの演奏をしながら、よりよくするための工夫をする。

スタート	オパ!	基本形
ストップ	オパ!	
かべぬり	基本形	ストップ
連打・フィニッシュ		

ア) 速さをキープする

イ) アンサンブルの進行をスムーズにする

ウ) 全身でリズムにのる

4. まとめの演奏をし、めあてが達成できたかどうか確かめる。

5. 本時の学習の振り返りと次時のめあてを書く。

・これまで学習してきた内容を、子どもたちがどのように活かしていくかを期待したい。

これまでにずっと聴いてきたサンバ・バトゥカーダの演奏に近い構成にし、場合によっては聞き比べができるようにする。

初めの演奏の速さは児童と話し合って設定する。

・実際に演奏した後、即時的に出た意見をもとに修正していくことを大切にしたい。

速さを合わせるための支援

スルドの音に合わせる

ステップを合わせる

アンサンブルの進行をスムーズにするための支援

ステップを止めない

オパ! の後ですぐ演奏に入るようにする

全身でリズムにのるための支援

楽器も体の一部だと考える

ステップだけでなく、上半身の動きをつけてみる
児童の具体的な気づきがない場合は、「本場のサンバ」または自分たちの演奏の映像を見る場面を設ける。

まとめの演奏をビデオに録画する。

・大改造する前の演奏の録画を見せた後に、今日の演奏の録画を見せることで、自分たちの成長が分かるようにする。

・自分のどんなところがよくなったのかを振り返り、4年1組と合同で開く「ときめきサンバ・カーニバル」では、どんな演奏をめざしたいかを書くように促す。

参考文献：「レッツ・プレイ・サンバ」 岡田亮 / 飯田茂樹 1998 音楽之友社
ニューグローブ世界音楽大事典 1994 講談社